

研究・調査プロジェクト報告

第四十二回中央教化研究会議

## 過疎地域寺院PJアンケート報告

河崎 俊 宏

人口減少という社会変動によって過疎問題が深刻化される昨今、宗門においても過疎地域寺院の活性化は大きな問題となっている。宗門、また現宗研でも様々な調査や取り組みが行われている。(別資料一―一)

現宗研過疎地域寺院PJでは、第四十二回中央教化研究会議に全国から参加教師に、過疎地域の寺院が抱える問題、その解決に向けての個々の取組みなど、過疎地域寺院の問題把握と、解決への糸口を探る各教師の意識に焦点を当てアンケート調査を実施し、統計をまとめてみた。

- ・ 中央教研参加総数 一四二名中 アンケート回答八九名(回答率六二・七%)
- ・ アンケート中、過疎地域の判断基準は自己の主観によるもの。(別資料一―二)
- ・ アンケート回答は全体の比率、次いで過疎地域と認識する回答者比率、次いで過疎地域意外の回答比率を示す。

# 第四十二回中央教化研究会議 過疎地域寺院研究プロジェクトアンケート報告

(参加者 一四二名中 回答八九名 六一・七%)

一、貴師の寺院は過疎地域にありますか？

- はい 三六名 四〇・四% (過疎地域)  
いいえ 五三名 五九・五% (過疎地域以外)

二、貴師の寺院の存続に関し、既に不安要因となっているもの、今後なりえると思われるものに○印を付けて下さい。

(複数回答あり)

\*全体 八九名中

- |                   |     |       |
|-------------------|-----|-------|
| イ、地域人口減           | 三五名 | 三九・三% |
| ロ、檀家数減少           | 四〇名 | 四四・九% |
| ハ、葬儀・法要数の減少       | 三七名 | 四一・六% |
| ニ、一葬儀・一法要当りの布施の減少 | 二六名 | 二九・二% |
| ホ、後継者問題           | 一三名 | 一四・六% |
| ヘ、檀家の後継者問題        | 六七名 | 七五・三% |
| ト、その他             | 一〇名 | 一一・二% |
| 回答なし              | 三名  | 三・四%  |

全体の回答の中では、檀家の後継者問題が最も多く、次いで檀家減少、葬儀・法要数の減少、人口減少と続いている。

次に過疎地域に寺院があると回答した方を見てみると、

\* 過疎地域回答者 三六名中

イ、地域人口減	二七名	七五%
ロ、檀家数減少	一八名	五〇%
ハ、葬儀・法要数の減少	一三名	三六・一%
ニ、一葬儀・一法要当りの布施の減少	一〇名	二七・八%
ホ、後継者問題	六名	一六・七%
ヘ、檀家の後継者問題	二五名	六九・四%
ト、その他	六名	一六・七%
回答なし	一名	二・八%
ト、その他の意見		
・ 不安を感じない		
・ 墓石の後継者問題		
・ 参籠、研修、観光者数の減少		
・ 信徒の信仰心の低下		
・ 同和問題		

・後継者問題というより収入面の問題

地域人口減を上位に檀家の後継者問題、檀家数の減少、葬儀・法要数の減少と続き、切実な現場の不安要因が見える。

\*過疎地域以外の回答者 五三名中

イ、地域人口減	八名	一五・一%
ロ、檀家数減少	二二名	四一・五%
ハ、葬儀・法要数の減少	二四名	四五・三%
ニ、一葬儀・一法要当りの布施の減少	一六名	三〇・二%
ホ、後継者問題	七名	一三・二%
ヘ、檀家の後継者問題	四二名	七九・二%
ト、その他	四名	七・五%
回答なし	二名	三・八%

ト、その他の意見

・仕事の形骸化

・信仰心の欠如

・寺行事への参加減少

・地域人口の高齢化

過疎地域以外の回答では、檀家の後継者問題を上位に葬儀・法要の減少、檀家数減少、一葬儀・一法要あたりの布施の減少と回答があった。

おのずと過疎地域にある寺院と、過疎地域以外の寺院の切実なる不安要因の現状が違っていることが見えてくるが、不安と感じる項目は同じようなテーマが見えている。

次に、不安要因を抱えながらも過疎地域の寺院には発展する可能性があるのかと言う質問を試してみた。

三、過疎地域寺院にまだ発展の可能性はありますか？

全体

はい	五八名	六五・二%
いいえ	一七名	一九・一%
その他	三名	三・四%
回答なし	一名	一九・一%

この問いに、全体の回答では六五・二%の方が可能性あると回答。

過疎地域回答者

はい	二五名	六九・四%
いいえ	六名	一六・七%
その他	三名	八・三%
回答なし	二名	五・六%

その他の意見

・発展の必要性は 支えにか？ 坊主の贅沢にか？

- ・何を以って発展とするか？ 経済なら、いいえ 市町村への皆婦妙法なら、はい
- ・人口減少の流れを止めることはほぼ不可能だと思う

過疎地域回答者の六九・四%の方が可能性あると回答。

#### 過疎地域以外の回答者

はい	三三名	六二・三%
いいえ	一名	二〇・八%
回答なし	九名	一七%

過疎地域以外の回答も六二・三%の方が可能性あると回答している。

回答中、全体、過疎地域回答者、過疎地域以外の回答も展望ありと回答しているところの意味は大きいように感じる。このことは、宗門の過疎地域寺院対策にはまだ可能性はあるという教師が大半を占めており、可能性はあるが具体策に悩んでいる現状が見えるのではないか。

そこで、過疎地域寺院の発展の可能性を探る為に何が必要で具体策の例をあげて問いかけてみることにした。

四、過疎地域寺院対策として今後の可能性や展望を見出すには何が必要だと思われませんか？ 必要と思われるものに

○印を付けて下さい。その具体策がありましたら記して下さい。(複数回答あり)

全体

イ、寺子屋 二六名 二九・二%

ロ、修養道場 二二名 二四・七%

ハ、地域ぐるみのイベント・催事 五一名 五七・三%

ニ、習い事（書道・茶道・華道等） 一五名 一六・九%

ホ、学習塾 六名 六・七%

ヘ、その他 四二名 四七・二%

回答なし 四名 四・五%

展望を見出す例では、地域ぐるみのイベント・催事が五七・三%を上位にその他具体策・意見が四七・二%と半数近くがあったのも特徴的であり、いかに地域ごとの様々な具体策が必要と考える教師が多いことが伺える。続いて寺子屋、修養道場と上位をしめた。

過疎地域回答者

イ、寺子屋 一二名 三三・三%

ロ、修養道場 一名 三〇・六%

ハ、地域ぐるみのイベント・催事 一九名 五二・八%

ニ、習い事（書道・茶道・華道等） 五名 一三・九%

ホ、学習塾 二名 五・六%

ヘ、その他 二〇名 五五・六%

回答なし

二名 五・六%

へ、その他の意見

- ・ 住職の人柄
  - ・ 地域を離れたかたの故郷
  - ・ 企業の新人研修誘致
  - ・ 信行会組織
  - ・ 寺院境内の開放
  - ・ 社会活動への積極的参加
  - ・ 民生委員、保護司など
  - ・ 地域との積極的コミニケーション
  - ・ 家族の信仰継承
  - ・ 都市不況への合理化
  - ・ ボランティア施設、グループホームなど
  - ・ 何かに特化する
  - ・ 年中行事の活性化
  - ・ 人口減少を止めない限り、なにをするのも難しい
- ・ 僧侶の資質向上
  - ・ 地域の特色の産業
  - ・ 修法や相談所
  - ・ 宗門からの住職派遣
  - ・ やる気
  - ・ 寺院、檀家の統合

過疎地域回答者の回答では、その他の具体策・意見を示す回答が五五・六%を占め次いで地域ぐるみのイベント・催事、寺子屋、修養道場と続いている。



過疎地域以外

- イ、寺子屋 一四名 二六・四%
- ロ、修養道場 一名 二〇・八%
- ハ、地域ぐるみのイベント・催事 三二名 六〇・四%
- ニ、習い事（書道・茶道・華道等） 一〇名 一八・九%
- ホ、学習塾 四名 七・五%
- ヘ、その他 二二名 四一・五%
- 回答なし 二名 三・八%
- へ、その他の意見
  - ・ 地域の人々へ仏教の教えを活かせる場があれば、どのような場であってもかまわない
  - ・ 地域の管区所長、干与人が寺の権利を譲らない限り過疎地域問題は進まない
  - ・ 過疎地域寺院、過疎地域ごとの連携
  - ・ 教学を基に活動する
  - ・ 管区全体で支い、檀家寺ではなく修養の場としての存続
  - ・ 過疎地域寺院の檀家の葬儀をした場合、都会寺院は布施の何割かを過疎地域寺院に送る
  - ・ 写経
  - ・ 宗門の経済的バックアップが必要（二名）
  - ・ 地域産業を復活させる
  - ・ 魅力ある宗教行事

- ・ 信仰的覚悟、移転、還俗
- ・ 地域活動やボランティアなどとの連携し地方の利点を構築
- ・ 永代供養
- ・ 僧道体験
- ・ 信仰、行学の研鑽
- ・ 地域の特色を活かす
- ・ 青年僧の布教の実践の拠点
- ・ 主体性を持ち続ける

過疎地域以外の回答では、地域のイベント・催事が六〇・四%を占め、次いでその他の具体策・意見、寺小屋、修養道場と続いている。

過疎地域寺院対策の展望に関しては、教師一人一人が具体策や意見を持つていることが読み取ることができ、全体、過疎地域、過疎地域以外にも、地域ぐるみでのイベント・催事とあるように社会やその地域ごとの公益性というものを視野に入れた地域の特質、特徴などをふまえた体系を模索していく必要性が強いということが読み取ることができるとはならない。

また、寺小屋や修養道場という例も多く回答を頂きそこからは青少年教化、幼児期教化を必要とするご意見が多い。

では次の質問は、より具体策をお尋ねしました。実際に寺院活性化のために取り組んでいる具体例や準備を進めて

いること、今後試みたいと思つてお聞きしてみました。

五、寺院活性化のために、工夫されている事や、実際に行つてゐる事、これから試みたいと思つてゐることがありましたら、お聞き下さい。

過疎地域回答者

- ・ 団体参拝、万灯講など
- ・ 青少年教化
- ・ 出前法要の実施 二名
- ・ 若い世代にお経練習など、なんとか寺に足を運ばせる 二名
- ・ 教箋・HPの充実 三名
- ・ 寺院設備の改善、バリアフリー化 二名
- ・ 寺子屋・修養道場 四名
- ・ 子供祭りを開催する等、子供向けの催しを行事に工夫をしている。食べ物・飲みものを提供 二名
- ・ ポシティング等をしている
- ・ 音楽祭、コンサートなど開催
- ・ 檀信徒との信頼強化 二名
- ・ 悩み事、人生相談 四名
- ・ 仏教界との連携
- ・ 自己の資質向上
- ・ お盆に花火大会

・イベント

・信行会、婦人会、和讃界、青年会

・宗教的な癒し

・地域との関係強化、コミュニティの場として フリーマーケット開催 三名

・地域、寺の独自性を 付加価値

・お寺音頭、CDの作成

回答なし 九名

より具体策に至っては過疎地域回答者は、悩み事・人生相談が多く次いで寺子屋・修養道場、地域との関係強化・コミュニティの場としての活用、フリーマーケット開催、教箋・HPの充実というかいとうが多かった。

このことから、過疎地域寺院は地域とより「密着型」を策として具体化しながら活性化に努めている、努めようとしていることが見える。

### 過疎地域以外

・地域ぐるみでのイベントに年中行事や社会活動を連携を持たせる 一〇名

・仏教塾開催 三名

・悩み事、人生相談 二名

・寺報、HPの充実 八名

・境内の美観に努める 二名

- ・ 普通にまじめに 二名
- ・ 信行会の充実 談信徒と会食を通じて信頼関係を強化
- ・ 寺院施設を開放（地域子供会、婦人会） 四名
- ・ 社会問題（平和問題）に寺院から発信をし、地域参加型の研修会や、イベントを開催 三名
- ・ 映画鑑賞
- ・ 年中行事に変化をもたす 二名
- ・ 撃鼓唱題
- ・ 年中行事の充実 お会式万灯など 三名
- ・ 青年会の結成
- ・ 地域コミニティーの場 二名
- ・ 霊断
- ・ 運命学
- ・ 回答なし 一 二名

過疎地域以外の回答からは、地域ぐるみのイベントに年中行事や社会活動を連携させるといふ具体策・ご意見が最も多く、次いで時報・HPの充実、寺院施設を開放、仏教塾開催、社会問題（平和問題）に寺院から発信し、地域参加型の研修会やイベントを開催、年中行事の充実などの回答がおおかった。

ここからは、過疎地域以外の寺院は人との関わりが希薄化となった社会に對しいかにアプローチを図ることができるといふ部分に具体策見えるように思える。

過疎地域回答者はより地域密着を模索し、過疎地域以外の回答者は社会に、地域の人々にどのように受け入れてもらえるかを模索しているように見える。言い換えれば、過疎地域以外の回答者も過疎地域とは違った都市部の危機意識が表に深刻であることが伺え、檀家とお寺、地域とお寺、社会とお寺という大きな問題をかかえている。

では、過疎地域の寺院も過疎地域以外の寺院も地域密着型や地域にアプローチを試みるうえで大切な地域との関わりについて質問してみました。

六、宗教活動に直結せずとも、地域社会との関わりを重視することは、やがて寺院活性化に繋がって行くと思いますか？

全体

はい 七六名 八五・四%

いいえ 八名 九%

回答なし 五名 五・六%

過疎地域寺院

はい 二八名 七七・八%

いいえ 四名 一一・一%

回答なし 四名 一一・一%

過疎地域寺院以外

はい 四八名 九〇・六％  
 いいえ 四名 七・五％  
 回答なし 一名 一・九％

地域との関わりという面では、全体、過疎地域、過疎地域以外共に必要と考える人が多い。  
 中でも過疎地域以外の回答者で地域との関わりを必要との回答が九〇・六％を示し現場での危機感がうかがえ対応の急務が考えられる。

では、より具体的に社会や地域に開かれた寺院づくりを模索する質問をしました。

七、宗教・宗派を超えたボランティア組織やNGO・NPOなどの活動は、過疎地域寺院活性化につながると思いますか？

全体  
 はい 五六名 六二・九％  
 いいえ 一九名 二一・三％  
 どちらでもない 三名 三・四％  
 回答なし 一名 一二・四％

過疎地域寺院  
 はい 一九名 五二・八％  
 いいえ 九名 二五％

どちらでもない 一名 一・二%

回答なし 七名 一九・四%

#### 過疎地域寺院以外

はい 三十七名 六九・八%

いいえ 一〇名 一八・九%

どちらでもない 二名 二・三%

回答なし 四名 七・五%

このことから、ボランティア組織やNGO・NPOの活動にはある一定の評価はするものの、いいえ・どちらでもないという回答も多い。

この割合は、何を示しているのでしょうか。では実際に寺院活性化に繋がった地域との関わり方法を具体的に質問してみました。

八、地域との関わりの中で、寺院活性化に繋がったと思われる具体策がありましたら、お聞かせ下さい。

#### 過疎地域回答者

・ 沖繩の歌・三線コンサート

・ 獅子舞

・ 落語会

・ 餅つき

・ 少しずつ他宗の人がお参りに来ます



・町内活動、子供会活動 二名

・演芸会

・題目踊り

・地域の商店主などの月例会の会場を提供、今では第三日曜日は朝参り会に発展している

・地域行事に参加することによって、寺院に来ていている方々の次世代とのつながりが生まれた

・修養道場

・灯籠流し

・民生委員、ボランティア活動を通して、学校、地域の人々に認識を得た

・青年団活動で他宗の方がお参りに来るようになった

・市の行事への協力、駐車場など

・ウォークラリーのコースを引き受ける

・地元祭りへの参加 二名

回答なし 二三名 六三・九%

#### 過疎地域以外回答者

・地元イベントへの参加 八名

・子供対象の催し 四名

・コンサート

・交通安全運動への取り組み

・火災予防運動への取り組み

- ・幼稚園設立、経営
  - ・信仰を媒介としなければ、寺院の必要性は認知されない
  - ・寺院行事を地域に案内
  - ・平和問題、環境問題などの取り組みをお寺から発信して行くにつれ、関心を持つ人々が増えた
  - ・地域の歴史など学ぶ講座を開設
  - ・境内の美観
  - ・障害者、グループホームなどへの手伝い
  - ・寺院施設を開放、コミニティーの場として提供 二名
  - ・お寺の行事に無料の屋台を出す
- 回答なし 二五名 四七・二%

様々な寺院活性化に繋がった貴重なご意見を頂いた。

過疎地域回答者、過疎地域以外の回答者共に回答なしがここでは

極めて多い、活性化に繋がったという具体策の難しさが見えてくる。

次に、都市部ではどうなのでしょう

九、都市における寺院の展望をどう考えますか？

全体

不安がある 六九名 七七・五%

不安はない 八名 九%

回答なし 一二名 一三・五%

過疎地域回答者

不安がある 二四名 六六・七%

不安はない 三名 八・三%

回答なし 九名 二五%

過疎地域以外回答者

不安がある 四五名 八五%

不安はない 五名 九・四%

回答なし 三名 五・七%

都市における寺院の展望には全体、過疎地域回答者、過疎地域以外の回答者共に不安がるとの回答が多い。過疎地域以外の回答者は八五%を示している。

また不安がないと回答したのは、共に一桁代の数値である。

深刻な都市部における問題も痕跡していることが伺える。

具体的な不安要因は何かとの問いに、

一〇、都市寺院における不安要因があるとすれば、それはどのようなものだとおもわれますか？

過疎地域回答者

・僧侶の墮落、資質の低下 二名

- ・ 葬儀、法要の減少
  - ・ 寺離れ 三名
  - ・ 形式化された葬儀、法事
  - ・ 布教がおろそか 二名
  - ・ 人とのつながりが希薄化 二名
  - ・ 宗教への意識低下
  - ・ 檀家の信仰継承がなされない 二名
  - ・ 人口のドーナツ化
  - ・ 地震
  - ・ 宗教派離れ 三名
  - ・ 布施の問題（葬儀など）
  - ・ 信仰心の希薄化 二名
  - ・ 僧侶を職業としか見ていない
  - ・ 金儲け主義
  - ・ 僧侶が信仰心がうすれ、仕事としてこなしている
  - ・ 地方寺院に比べ、都市寺院は維持等支出が多い
  - ・ 月経をしなくなっている
  - ・ 三離れ
- 回答なし 一二名 三三・三%

過疎地域回答者は都市寺院における不安要因を寺離れ、宗教離れと考える回答が多く、次いで僧侶の墮落・資質の低下、信仰心の希薄化、檀家の信仰継承がなされない、人とのつながりの希薄化を挙げている。

過疎地域以外回答者

- ・ 宗教の形式化・儀礼の簡略化が影響 四名
- ・ 寺檀関係の希薄化 四名
- ・ 宗教離れ 七名
- ・ 世代の変動
- ・ 葬儀の重要性
- ・ 社会変化に対応における、都市寺院と地方寺院格差
- ・ 宗教、僧侶に対する不信任 七名
- ・ 葬儀社の過剰な介入
- ・ 都会寺院にも危機が迫ってくる 四名
- ・ 寺と地域の関係が薄い 四名
- ・ 高い布施による寺離れ 二名
- ・ 寺への帰属意識の低下
- ・ 檀家の信仰継承が困難 三名
- ・ 信仰心の希薄化 三名
- ・ 新興宗教の台頭

・ 宗教法人法改正による税制や建築物に関する問題

・ 檀家の減少 二名

・ 檀家離れ 二名

・ 教化方法

・ 僧侶の俗化

回答なし 一一名 二〇%

過疎地域以外の回答者は宗教離れ、宗教・僧侶に対する不信感が上位に、次いで寺檀関係の希薄化、宗教の形式化・儀礼の簡略化が影響、寺と地域の関係が薄い、都市寺院にも危機が迫ってくる、高い布施による寺離れ、檀家の信仰継承が困難、信仰心の希薄化と回答が寄せられた。

次にこの不安要因に対する対策を質問してみました。

一一、問い一〇の不安要因への対策として、考えられることがありましたら、お聞かせ下さい。

過疎地域回答者

・ 僧階の金階化の是正

・ 教箋、冊子の配布

・ 意識の向上（寺院、教師） 二名

・ 地域に開かれた寺院

・ 心に響かせる、届ける布教

・ 自らが行動する実行力

・地震対策

・次世代へのアプローチ

・信行会、講習会、講座の充実を図る

・寺院の開放

・積極的に檀家と関わりを持つ 二名

・法式の充実と法話、説教

・お寺の運営が出来なくなる

・僧侶不要地代

・布教

・コスト削減

・寺院の公益性

回答なし 一九名 五二・七%

過疎地域回答者は不安要因の対策として、寺院・教師の意識の向上が多い。

#### 過疎地域以外回答者

・檀信徒との親密な関係を構築しよう努める 三名

・宗教の必要性を説く

・法務を丁寧な、アフターも

- ・データ管理
- ・宗門の根本的機構改革
- ・人との繋がり重視
- ・受身ではなくこちらから社会に対して
- ・伝統を守る
- ・寺の思い上がり
- ・安くする
- ・信頼を得る
- ・サラリーマン的思考からの脱却 二名
- ・地域との関係を構築 五名
- ・教師の育成、派遣
- ・寺院の施設開放
- ・仏教講座開設、行事の広報活動 二名
- ・宗教的個々のケアの必要性
- ・HP、ネットの活用
- ・欲を出さない
- ・法華経でしか社会の諸問題に対応出来ないという教義の体系化
- ・寺が社会の変動についていけない
- ・お金の問題、寄付は抵抗感があるので、不必要な寄付を無くす、会費には抵抗感が低い



・ 御礼や布施が納得いくような儀式、法式を行う

・ 教化活動

・ 自らの資質の向上

回答なし 二一名 三九・二%

過疎地以外の回答者はこの不安要因の対策として、寺と地域の関係を構築するが多く、次いで檀信徒との親密な関係を構築するように努める、サラリーマン的思考からの脱却、仏教講座開設・行事の広報活動の回答を頂いた。

過疎地域・過疎地域以外の都市部その双方に起きている問題点に関して全国からの教師一人一人の考えや、不安要因、取組み具体例など今回のアンケートによって、教師のこの問題に関する内面の部分が見えているように感じました。このような現状であっても宗門の教師は冒頭にあつたように、過疎地域における寺院の活性化はまだ展望はあると回答していることは、早急なる対策や、様々な具体例を提示してその地域にあつた活性化、展望を実施できるように望みたいものである。

同様に、過疎地域対策と共に都市部寺院対策も急務を要すると言える。

最後に、宗門に対する要望等をお聞きしました、

一二、過疎地域寺院活性化について、宗門に要望等がありましたら、ご自由にお書き下さい。

過疎地域回答者

・ 過疎地域寺院への財政支援 他宗が見捨てた地域であっても、日蓮宗だけは見捨てないという姿勢、宗門と

してアピールしてほしい

・冊子、教箋の配布

・三年程宗門から給料を支払い実地のものとして活用

・各寺院の後継者は、ちほうの過疎地域寺院を三年程廻り自坊を継げる体制をつくってみては？

・資金的援助必要 四名

・見切りをつけるのも重要

・住職の生活を保障

・教師の派遣

・どのような事をしていただけるの？

・過疎地域の事をもっと真剣に考えてほしい、具体策を

・課金の値下げ 二名

・地方の意見を汲み上げて

・寺院の統合、寺院の拡張 二名

・宗門のイベントを過疎地域で実施

・宗報の紹介記事は「なにかしなければ」と考える方に有効だと思われる

・過疎地域寺院には若い人より、生活の基礎が出来ている年金生活者を入れて、無住にしないようにしてみ  
は？

・ネットワークの強化

・万灯講など組織の推進など

回答なし 一九名 五二・七%

過疎地域以外回答者

- ・ 地域格差は年々広がる、都市寺院が過疎地域寺院をサポート
- ・ 対象寺院を直轄管理
- ・ 過疎地域と過疎地域寺院の区分けをしてほしい
- ・ 過疎地域寺院に対して、都市寺院から零れ落ちたしずくの受け皿的受け止め方はすべきではない
- ・ 宗費の削減
- ・ 代務を減らし、直轄寺院として住職を派遣
- ・ 人材バンク活用
- ・ 寺院の統合、配置移転 三名
- ・ 過疎地域寺院の教師の研修会
- ・ 管区の協力で行事を多くし、地域の人々の意識の向上を計り宗門として助成する
- ・ 個別の対応ではなく、ネットワークの整備
- ・ 人口増大地域からの支援
- ・ 宗門の出先機関をつくる
- ・ 修行のばとして活用、中高年の出家希望者へ提供、住職に関する規則、規定の変更を伴う、正住職に対し準住職など
- ・ 祖願を基本として様々な対応が出来ないものか？
- ・ 資金的手助け

・ 一生懸命に守っている者に対して、もう少し理解があっても良いのではないか  
・ 過疎地域寺院と過疎地域の見解？

・ 行政面、地元所長、干与人、代務者の改革

・ 教師自身の資質を高める

・ 後継者の確保

・ 収入源の保障

・ 都市寺院の者が、実際に過疎地域寺院の実態をみる機会を与えてほしい。

回答なし 三〇名 五六・六%

### 一三、貴師の管区名をお知らせ下さい。

過疎地域回答者 都道府県

・ 大分           ・ 北陸           ・ 福井           ・ 石川           ・ 三重           ・ 宮崎           ・ 千葉

・ 北海道       ・ 岩手           ・ 千葉           ・ 静岡           ・ 千葉           ・ 青森           ・ 京都

・ 静岡           ・ 山梨           ・ 佐賀           ・ 神奈川       ・ 兵庫

回答なし 一〇名

過疎地域以外回答者 都道府県

・ 埼玉           ・ 東京           ・ 山梨           ・ 栃木           ・ 東京           ・ 岡山           ・ 香川

・ 九州           ・ 奈良           ・ 福岡           ・ 山梨           ・ 三重           ・ 宮城           ・ 愛知

・ 山梨           ・ 東京           ・ 千葉           ・ 神奈川       ・ 千葉           ・ 大阪           ・ 北海道

・神奈川      ・兵庫      ・大阪      ・兵庫      ・高知      ・愛媛  
回答なし 一二名

一四、その他、過疎地域寺院活性化について何かご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。

全体

- ・ 寺庭婦人に住職権を与えると、死後宗教法人名義が売られる可能性があります。
- ・ 宗門、管内寺院の協力
- ・ 国の全体の活性化に期待
- ・ 過疎化の問題は寺院も含め地域の問題、日蓮宗として地域活性化まで手をひろげるつもりはないのか？
- ・ 寺離れと過疎が同じものになっているような気がする、区分けをしっかりと
- ・ 地震を磨く 積極的に檀信徒の諸問題に手助けを
- ・ 宗門は過疎地域寺院の内情を理解していない
- ・ 過疎問題は社会問題、宗門挙げて対策を
- ・ 寺院の適正配置、都市寺院についても同様（草加市三〇万人以上でありながら、本宗寺院なし）
- ・ 任期を決めて多くの若手僧侶が地方寺院の住職体験をすれば大きな変化が期待できるのではないのでしょうか？ 総合財団や立正育英会の基金が使えるといいですね？
- ・ 地元檀信徒との繋がり強化が大切
- ・ 過疎地域でも地域のデイケアーとの連携で成功している事例がありました、何らかの方策があると思います
- ・ 教師の熱意を如何に未信徒に伝える方法を考える

・無住の寺院統廃合

・過疎問題は我々では解決できない。生活レベルを維持する為に寺院活性化に傾注するのは愚かであり、早々に僧侶以外の道を探すほうが良い

・地域との交流、来やすい寺院、人との交流という基本手筈なことが一番おろそかになっている

・宗報の過疎地域寺院の連載が大変参考になります

・宗門管理、干与人の意識改革、利権をやめさせる

・宗教法人をなくすのは簡単だが、取得するのは大変難しい、活性化に教師を期間を決めて派遣し、生活を保障する

・自然、治安、空気（ぜんそくやアトピー）の良い点をアピールし人を呼ぶ、受け入れる土地も必要

以上が第四十二回中央教研会議において過疎地域寺院PJが行ったアンケート調査の報告である。

ご協力頂きました教師の皆様には感謝申し上げます。

# 研究例会 中央教研会議アンケート報告 過疎地域寺院PJ 参考資料

（別資料一―二）

宗門

昭和三八年 第一三回定期宗会 過疎地域問題提起

六二年 第一回過疎対策研究会

平成 二年 過疎地域対策懇談会

一七年 過疎地域寺院活性化委員会

二〇年 宗報 特集 地域に生きる寺院の取組み

連載 地域の中でキラリと光る、活性化寺院

（一回広島竹原市本立寺～一回広島福山市妙藏寺）

二二年 元気な寺づくり読本 発行

現宗研

昭和四二年過疎地域調査開始

五九年～六二年寺院実態調査

（山梨県早川町・島根県・千葉東部・千葉南部・千葉西部・北海道）

平成元年「ここまできている過疎地域寺院、あなたはしつてますか」発行

一六年～一七年 追跡調査（山梨県早川町）・過疎地寺院調査（山梨県中富町）

現宗研レポート（平成一五年五月号 宗報）

寺院経済基盤としての葬儀について～二一世紀の寺院運営～から

現宗研」の時事ノート（平成一六年三月号 宗報）

スローフードを過疎地域寺院で立ち上げてみませんか

現宗研時事ノート（平成一七年一二月号 宗報）

二二年前とちつとも変らない過疎対策

現宗研時事ノート（平成一八年二月号 宗報）

お寺ルネッサンスをめざして

現宗研研究調査ノート（平成一八年一〇月号 宗報）

過疎地域寺院対策 中四国教研・東北教研速報

現宗研時事ノート（平成一九年二月号 宗報）

人口減少

現代宗教研究 三〇号



教団研究セミナー―都市開教の実態―現場からの視点―

現代宗教研究 三一号

寺院調査PJ 都市寺院調査―福岡市寺院調査―

現代宗教研究 三二号

寺院調査PJ 都市寺院調査―福岡市寺院調査最終報告―

政令指定都市福岡市寺院調査と札幌市寺院調査の比較分析

現代宗教研究 三八号

過疎過密にかかわる寺院の適正配置を考える

現代宗教研究 三九号

国内開教に関する一考察―寺院の適正配置より―

現代宗教研究 四二号

過疎地寺院対策一考察

宗勢調査報告（平成一六年実施）平成一八年宗報一月号

(別資料一―二)

過疎地域 国の過疎地域自立促進特別措置法に定義する要件を満たしている地域のこと、即ち国のしている過疎地域市町村

\*昭和三五年から平成七年の間に

人口減少率三〇%以上

人口減少率二五%以上で高齢者比率(六五歳以上)二四%以上

人口減少率二五%以上で若年者比率(一五歳以上三〇歳未満)一五%以下